おや。おや

成長を信じる

ももぐみ　☺☺　☺☺☺

☺が生まれたのはコロナ禍真っ只中の二〇二〇年五月で生まれた瞬間から人との接触をなるべくしないような生活をしていました。

子どもと遊ぶ機会もないまま、幼稚園をどこにするか考えていたとき、たまたま行った公園で☺と遊んでくれた子がむらさきに通っていて、お母さんが「明日園庭開放がありますよ！」と教えてくれたので行ってみることにしました。

園庭開放に行っていろんな子と遊んでいる姿を見たり、先生から「むらさきは決まったことがなくて自由保育なんです」と聞き、☺に合っているなと思い「ここにしよう」と決めました。

幼稚園の面接のとき「心配なことなどありますか？」と聞かれ、その頃の☺はほぼ「タ行」しかしゃべれず発達健診でも言葉が遅いと言われていて、大丈夫なのかなと思っていることを伝えると、当時の園長、光信先生から「そんなたった二、三分やそこらしゃべっただけのやつに何がわかるんや。大丈夫、元気に育ってます」と言われ「え!?」と驚いたものの同時に「ほんまにそうやな、何がわかんねん！」と心の中のモヤモヤしていたものがスッと取れて不安はなくなり「ここの幼稚園なら安心して通わせられる！」と思いました。

四月になり入園式では初めての環境、着慣れない制服でドキドキしていたのか終始無言でした。

初登園の日、歩きなので門の前でバイバイするまで「泣くかな？」「大丈夫かな？」と心配していたものの何だったの？と思うほどすんなり中へ。繋いでいた手もパッと離してバイバイも振り返りもせずスタスタと園の中に入っていき、とても楽しかったのかお迎えに行っても全然出てこない。帰りたくなくて泣いてました。「普通逆やろ！」と母はちょっと寂しく、悲しかったです。笑

一学期は帰ってきたら何をしたのかをすぐに教えてくれましたが「誰と遊んだん？」と聞いても「わからん！」と言ったり、名前が出てきても年中、年長さんばかりでクラスの子とは遊んでないのかな？と思い、個人懇談のときに小田先生に聞いてみたところ、やっぱりクラスにはほとんどおらず、あっちこっちに行き、年上の子たちと遊んでいるというか「ついてまわっている」感じなんだなぁと、年上好きな☺らしいなと思いました。

でも二学期、三学期と進んでいくにつれ「きょうはしろうさぎさんで〇〇した！」とか「☆ちゃんとおみせやさんした！」「きょう□くんおやすみやったからあそべへんかった」とクラスの子の名前が増えていきました。

ある日☺が急に「☆ちゃんをだいだいさん（年長）からまもるねん！こうやって！」と両手を横に目一杯広げて怒った顔で言い出し、「何かされたん？」と聞いてみても「ううん」と首を横に振って「☆ちゃんすきやから！☺つよいやしな！」とドヤ顔で言われ、何もされてはないけど「大好きな子を守るんだ！」という☺なりの考えがあるようで、必死に笑いを堪え「すごいなぁ！」とだけ言いました。笑

そんな友達が大好きで優しく育ってくれたのは、むらさきでの経験が大きいんだなと思います。

進級で園生活の変化に戸惑うこともあるかなと思っていましたが、三日目にはもう「☺☺はももさんやねん（どやっ！）」と言っていて、子どもの順応の速さに驚かされています。

毎日幼稚園大好きで楽しそうに通っている姿を見てとても安心できること、先生方や保護者のみなさまに見守られながら、自由にのびのびと成長できる環境に感謝の思いでいっぱいです！

親としてはまだまだ甘えんぼな☺を見て「できることは自分でやってよ」と思うこともありますが、子どもはしっかり成長しているので信じて見守り、これからも☺らしく、自由にむらさきならではの〝おもしろい〟をいっぱい見つけながら、楽しい幼稚園生活を過ごしていってほしいです。

